

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 29 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  WEB 投稿受付 3 月 1 日～4 月 21 日	92
○平成 29 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2 月 10 日	94
○平成 29 年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて WEB 投稿受付 3 月 1 日～4 月 21 日	95
○新企画!! 学生会員入会時の新たな特典について	96
○「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水(畑)』」の発行について(再)	97
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	97
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	97
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	98
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	99
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	100
○平成 28 年度北海道支部講習会の開催について  参加申込締切 1 月 13 日	101
○平成 28 年度関東支部技術研修シンポジウムの開催について  参加申込締切 2 月 6 日	101
○平成 28 年度京都支部講習会・研修会および農業農村整備地方セミナー(北陸東海近畿ブロック) の開催について  参加申込締切 2 月 3 日	102
○農業農村整備政策研究部会第 4 回研究集会の開催について  1 月 23 日開催	102
○水土文化研究部会第 14 回研究会の開催について(第 1 報)  3 月 2 日開催	103
農業農村工学会論文集内容紹介	104
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」内容紹介	106
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覧	108
受入れ図書	109
文献目録	109
学会記事	111

第 85 巻第 2 号予定

展望：轍なき道を進め：土居邦弘

小特集：海外農業農村開発協力のこれまでとこれから

▷報文：今後の農業農村開発協力の展開と課題：宮崎雅夫ほか

▷報文：SDGs と今後の農業農村工学：長野宇規

▷報文：国際農業・農村開発協力の展望：三次啓都

▷報文：海外農業農村開発協力と変遷と課題：岩本 彰ほか

▷報文：東南アジア諸国における農家参加型水管理の現状と技術協力の方向：齋藤晴美ほか

▷報文：ミャンマーにおけるモデルほ場整備の計画・設計：渡邊史郎ほか

▷報文：カンボジアにおける流域水資源利用に対する日本の協力状況：平岩昌彦ほか

▷報文：地方の技術・知識を国際協用に活用した香川県のため池研修：金森秀行ほか

▷報文：ルワンダ共和国における農業農村開発の課題と展望：田中卓二

技術レポート

北海道技術支部：ICT を活用した長大農業用パイプラインの通水試験：山本康仁ほか

東北支部：地下灌漑による農地の集積や高収益農業の実現：田上文啓ほか

関東支部：簡易貫入試験データの精度向上による地盤安定処理の適正化：宇田川哲也ほか

京都支部：大江南域地区のトンネル工事：安村 博ほか

中国四国支部：三川ダムにおける小水力発電所の設置事例：村中郁夫

九州沖縄支部：ダム間送水による農業用水の再編：島袋 進ほか

小講座：持続可能な開発目標(SDGs)：山岡和純

私のビジョン：江口敦俊

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 29 年 1 月 23 日	農業農村整備政策研究部会	第 4 回研究集会	Ⓟ これからの水資源マネジメントを考える	東京都	84 巻 11 号 85 巻 1 号
平成 29 年 1 月 25 日	北海道支部	支部講習会	Ⓟ 寒冷地における土地改良長期計画・農業用水(畑)・農業水利施設の機能保全	札幌市	85 巻 1 号
平成 29 年 1 月 27 日	材料施工研究部会	第 54 回シンポジウム	Ⓟ 大規模地震に対する農業水利施設の耐震対策の現状と課題	名古屋市	84 巻 11 号
平成 29 年 2 月 13 日	関東支部	平成 28 年度技術研修シンポジウム	Ⓟ 農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後の展望	東京都	85 巻 1 号
平成 29 年 3 月 2 日	京都支部	平成 28 年度支部講習会・研修会・農業農村整備地方セミナー(北陸東海近畿ブロック)	Ⓟ 地域資源を活用した地域の振興・活性化(仮)	名古屋市	85 巻 1 号
平成 29 年 3 月 2 日	水土文化研究部会	第 14 回研究会	Ⓟ 農山村の景観形成と水利用の歴史の変遷	東京都	85 巻 1 号
平成 29 年 8 月 29~31 日	大会運営委員会	平成 29 年度大会講演会	Ⓟ —	藤沢市	84 巻 12 号 85 巻 1 号

平成 29 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 29 年度農業農村工学会大会講演会は、日本大学生物資源科学部(湘南キャンパス)において平成 29 年 8 月 29 日(火)、30 日(水)、31 日(木)の 3 日間および現地研修会 9 月 1 日(金)の開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌 4 月号でお知らせします。

大会講演会の発表申込みは WEB 投稿となります。

URL は http://www.jsidre.or.jp/zenkoku_application/ です。

WEB 投稿の受付期間は平成 29 年 3 月 1 日(水)~4 月 21 日(金)とします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**: 代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページの入会手続き(http://www.jsidre.or.jp/about_member/)をご参照願います。
- (2) **講演内容**: 学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**: 12 部門あります。ただしプログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**: 原則として、1 人(共同研究の場合は代表発表者)1 課題とします。ただし、企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。

- (5) **発表形態**: 発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んでください。

①「口頭発表」: 各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」: 講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んでください。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで 6 月末までにお知らせします。

- (6) **講演時間**: ①口頭発表は 1 課題 15 分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは 1 セッション 100 分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**: (2) にあてはまるすべての原稿を CD-ROM 版講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**: WEB 投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200 字以内)を、概要集に集録します。200 字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) WEB から新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および申込料 2,160 円(税込)の納入をもって申込みとみなします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載してください。年会費等をまとめて支払う場合には内訳も記載してください。なお、送金後に発表を

取り消されても、申込料の返金はありません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。送金済みの振替の控えをPDF以外の画像データとして、WEB登録画面から送信してください。

銀行振込：みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページとします。後述の「3.講演原稿の書き方」に従い、作成してください。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (4) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)としてください(例:「nougyou tarou.pdf」)。

3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4判(横210mm, 縦297mm)で、マージンは次のようにしてください(下図参照)。
上:25mm, 下:27mm, 左:23mm, 右:25mm

(2) 書式

- ① 文字:文字は、10.5ポイント以上としてください。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字(①, ②, …I, II, …等)も使わないでください。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。
- ② 題目・所属・氏名・本文:本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記してください。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記してください。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

- ・Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社:Adobe Acrobat に付属)を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDF (Portable Document Format) ファイルとしてください。
- ・PDFファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定をしないようにしてください。

- (5) 受付期間:平成29年3月1日(水)~4月21日(金)
(遅延・原稿差替えは不可)

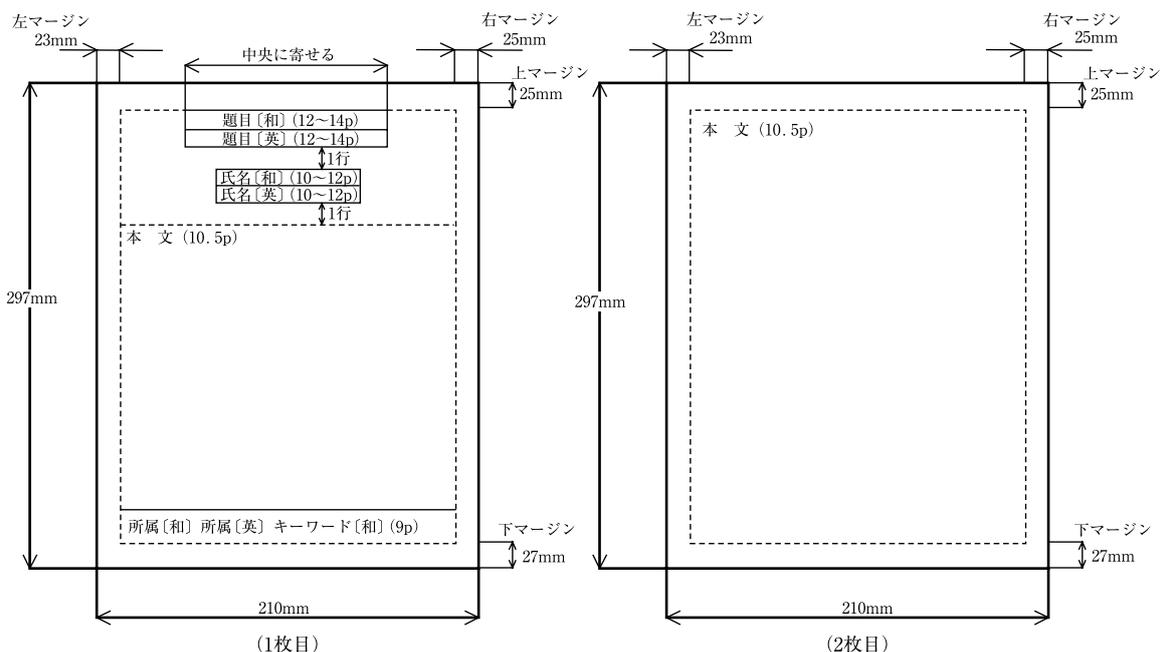
(6) 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL:03-3436-3418 FAX:03-3435-8494
E-mail:zenkokutaikai@jsidre.or.jp
郵便振替:00160-8-47993

加入者名:公益社団法人農業農村工学会

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いてください。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにしてください。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ



キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書き込み（あるいは貼り込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにしてください。また、図表の表題にも英語を併記してくだ

さい。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(公社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

平成 29 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

平成 29 年度大会講演会（8 月 29 日～31 日（9 月 1 日は現地研修会）、日本大学生物資源科学部（湘南キャンパス））における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募ください。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発

表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用してください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は2月10日(金)です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局(zenkokutakai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ:「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話, E-mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)

なおセッション数の関係上, 応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。あるいは, 研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合, 調整をお願いすることがあります。企画の採否については, 研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則100分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも, 最低2~3名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は会員であることを要しませんが, 大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は, 企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めますが, 個人発表者が複数の企画セッションで発表することは, プログラム編成上の理由から認めら

れませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり, この点に十分留意してください。

なお, 企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また, 各セッションは100分を予定していますが, プログラムのブロック割りのため, セッション時間が100分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承ください。

各企画セッションの申込料は, 講演題数にかかわらず一律12,960円(税込)となります。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2月10日(金)
2. 研究委員会で調整の後, 応募テーマの採否の連絡
2月24日(金)頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月10日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月24日(金)
5. セッションの講演要旨原稿の提出締切
4月21日(金)

申込み・問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutakai@jsidre.or.jp

平成29年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて

平成29年度農業農村工学会大会講演会は, 日本大学生物資源科学部(湘南キャンパス)において平成29年8月29日(火), 30日(水), 31日(木)の3日間および現地研修会9月1日(金)の開催を予定しています。

この大会講演会では, 学生会員における講演発表の経験の場として, また全国の学生会員の学術交流をはかる場として, 学生会員を対象にしたスチューデントセッションが設けられます。スチューデントセッションで講演発表を行いたい学生会員の方は, 下記要領により, ふるってお申し込みください。今回のご案内は, スチューデントセッションにおける講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は, 学会誌4月号でお知らせいたします。

大会講演会の発表申し込みはWEB投稿となります。

URLはhttp://www.jsidre.or.jp/zenkoku_application/です。

WEB投稿の受付期間は平成29年3月1日(水)~4月21日(金)とします。

1. 講演要領

(1) 講演資格: 代表発表者は, 本学会の学生会員もしくは,

発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後1年以内の会員に限ります。講演申込み受付の際, 会員番号を確認します。この機会に入会される場合は, 学会ホームページの入会手続き(http://www.jsidre.or.jp/about_member/)をご参照願います。

(2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は, 一般セッションの講演のようにまとまったものでなく, 博士論文, 修士論文, 卒業論文として取り組んでいる研究の途中結果や展望であってもかまいません。ただし, 指導教員もしくは共著者がいる場合は, 発表についての同意を要します。

(3) 講演部門: 一般セッション(個人発表, ポスター発表)および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演になります。

(4) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は, 1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし, 「一般セッション(個人発表, ポスター発表)あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各1件ずつの発表は認めます。

- (5) **発表形態**：発表形態は、口頭発表（講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式）に限ります。
- (6) **講演時間**：口頭発表は1課題9分（発表5分+質疑応答4分）です。（講演数により変更する場合があります。）
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要（200字以内）を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) スチューデントセッションにおける講演申込料は無料です。
- (2) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロードをもって申込みとします。
- (3) 講演原稿は、図・表・写真等を含め**1課題2ページ以内**で**1ページでも可**とします。後述の「3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (4) CD-ROM版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (5) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）としてください。（例：「nougou tarou.pdf」）。
- ・Acrobat Distiller または Acrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobat に付属）を使用し、すべて

のフォントの埋込みをして変換したPDF（Portable Document Format）ファイルとしてください。

- ・PDFファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定をしないようにしてください。

(6) **受付期間**：平成29年3月1日（水）～4月21日（金）
（遅延・原稿差し替えは不可）

(7) **問い合わせ先**

（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木 あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
Email：zenkokutaikai@jsidre.or.jp
郵便振替：00160-8-47993
加入者名：公益社団法人農業農村工学会
銀行振込：みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

3. 講演原稿の書き方

本誌93ページの「平成29年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて 3. 講演原稿の書き方」を参照してください。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

新企画!! 学生会員入会時の新たな特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+年会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

- ①ハンドブック3点セット（従来）
（ハンドブック+用語事典+初年度会費）
学部生 17,000円
大学院生 19,500円
- ②**必携3点セット（新設）**
（必携+用語事典+初年度会費）
学部生 7,000円（5,750円）
大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット（新設）

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）
大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック
必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）
用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先

（公社）農業農村工学会 図書係
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水（畑）』」の発行について（再）

この度、「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水（畑）』」が平成28年10月末に発行されました。

<改定の趣旨より抜粋>

…、平成9年6月3日に土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水（畑）」（以下「本基準」という。）として全面改定を行った。

その後、平成13年の土地改良法の一部改正において、土地改良事業の施行に当たって環境との調和への配慮が位置付けられるとともに、平成24年に閣議決定された土地改良長期計画では、農業水利施設の戦略的な保全管理が位置付けられた。

これらの施策を、畑地かんがいに係る土地改良事業の計画に反映するため、本基準の内容を改めて制定した。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農業用水（畑）」

監 修：農林水産省農村振興局

発 行：(公社) 農業農村工学会

価 格：2,900円（消費税8%込、送料学会負担）

規 格：A4判 約400ページ

改定年月：平成27年5月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送りください。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であ

り、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利

用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌12月号掲載の問題は1月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成30年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成30年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第86巻（平成30年1～12月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

秋季～冬季 平成29年3月31日

春季 平成29年6月30日

夏季 平成29年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第86巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成30年度全国大会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

公益社団法人 農業農村工学会

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
85 巻 2 号	海外農業農村開発協力のこれまでとこれから (仮)	公募なし
3 号	ダム保全管理工学の最前線 (前編) (仮)	公募終了
4 号	ダム保全管理工学の最前線 (後編) (仮)	公募終了
5 号	多彩な農業農村工学の魅力の発信 (仮)	平成 29 年 1 月 16 日
6 号	「水土の知」の技術開発を促進する産学官の連携 (仮)	平成 29 年 2 月 15 日
7 号	大会特集号 (関東支部)	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

85 巻 5 号テーマ「多彩な農業農村工学の魅力の発信」(仮)

「農業農村整備に関する技術開発計画 (骨子)」(案) (平成 28 年 10 月時点) では、技術開発の推進に向けた 6 つの取組方針が打ち出されました。その中の 1 つ「人材の育成と品質確保」では、「産学官が連携し、交流、研修、国の計画設計基準等の技術図書普及、新技術導入等による品質確保等を通じて、時代の要請に即した実践的な技術力を有する人材を育成していく。また、地域の課題を的確に捉え、技術開発の進展に対応して地域への的確な技術的サポートができる技術者の育成を推進する」とあります。こうした人材を育成していくためには、まず人材の確保が前提となります。これには、農業農村工学分野に進学した学生がこの分野への魅力を感じ、将来一翼を担うことが重要です。

農業・農村をとりまく社会、経済情勢は、これまでも増して、変化の速度を速めており、大規模な経営体の出現や農業の六次産業化など、新しい時代に向けての構造変化も進んでいます。さらには、極端な気象現象や大規模地震が頻発し、放射能

汚染などもあって、農地や水利施設への減災技術などの進展が望まれ、今後も将来にわたり、若い有望な人材が必要とされています。

そのために、農業農村工学会では今、教育、研究、行政、民間をも含めた関係するすべての機関が協力し、若い人々に「農業農村工学」が魅力ある分野であることを発信し、同時に、この分野で活躍することに生きがいを感じられる仕組みについて、知恵を出し合うことが必要となっています。

本小特集では、農業農村工学分野の魅力を生員を中心とした若者に発信することを目的として、多彩な技術・研究の最先端や若者の活躍の場の紹介のほか、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方や職場環境などに関する報文を募集します。特に、賛助会員、民間企業の会員の皆様からの積極的な投稿をお願いいたします。なお、報文は 4 ページに達しないものも歓迎します。

85 巻 6 号テーマ「『水土の知』の技術開発を促進する産学官の連携」(仮)

情報通信技術の急速な発展や、気候変動などに伴う災害リスクの顕在化など、社会情勢の変化を背景として、農業農村整備分野では「新たな土地改良長期計画」が平成 28 年 8 月に決定されました。これを受けて農林水産省は「農業農村に関する技

術開発計画 (平成 29~33 年度)」の 5 年計画を策定中であり、技術開発を的確に進めていくことが求められています。実用性に富み、社会に貢献できる技術の開発と普及に向けて、産学官の連携がますます重要となっています。

農業農村整備分野の技術開発では、各地の営農条件や農業形態に合わせた実証的な研究が基本となることから、地域の自然や社会条件を踏まえた広範な研究や基礎的な研究を継続することが不可欠です。限られた人材や予算の下で技術研究を継続的に展開するためには、産学官の情報共有を図り、新技術の情報を現場技術者や農業者などのユーザーに提供し、現場から得ら

れるフィードバックを蓄積して技術改良・普及につなげるなど、技術開発のサイクルを構築することも必要とされます。

このような技術開発にかかる情勢を踏まえ、現場ニーズに即した新たなシーズを醸成する技術開発の取組みについて、産学官の連携事例、その成果、課題や提言など、「水土の知」の技術開発を促進する産学官の連携に関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ Editors 14カ国から20名
- ・ Advisory Editing Board 29名
- ・ Chief Management Editor
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

・ Managing Editors

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Techology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016年7月から2018年6月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局

平成 28 年度北海道支部講習会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



北海道支部では以下のテーマで講習会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

1. 日時 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 9:30~
2. 会場 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階 講堂
(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)
3. テーマ 寒冷地における土地改良長期計画・農業用水
(畑)・農業水利施設の機能保全

4. 参加申し込み

下記様式により、E-mail、FAX または郵送にてお申し込みください。締切は平成 29 年 1 月 13 日 (金) です。

5. 申込み・問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
TEL：011-706-3641 FAX：011-706-2494

所属機関

同上所在地

申込代表者

TEL

氏名	所属	備考

6. 参加費 2,000 円

7. その他

プログラム等に関しては現在調整中です。農業農村工学会北海道支部ホームページに掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

平成 28 年度関東支部技術研修シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



このたび、関東支部では「農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後の展望」と題した研修シンポジウムを企画いたしました。農業水利施設群は、食料の安定供給、国土や美しい農村景観などの保全に欠かせない大切な基盤です。一方、それらは老朽化の危機に直面しています。戦後、集中的に整備された施設の多くが耐用年数を迎え、老朽化した施設が増加しています。さらに、維持管理を担う人の高齢化、減少の問題も深刻です。人と施設の高齢化による故障等のリスクの増大と施設の荒廃が今後の大きな問題です。今回の講演では、施設と人の高齢化による施設の荒廃を防ぎ、既存施設を丈夫に長くそして美しく使いきる新たな維持管理技術の開発を目指すストックマネジメントの理論から実践まで多面的な紹介がなされます。農政局や各県、土地改良事業団体連合会などから多数の参加をお待ちします。

1. テーマ 農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後の展望
2. 日時 平成 29 年 2 月 13 日 (月) 14:00~17:00
3. 場所 東京大学弥生キャンパス (農学部) フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>
4. アクセス 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/keiro.html>

お車でお越しはご遠慮願います。

5. プログラム

- 13:30~14:00 受付
- 14:00~14:10 開会
- 14:10~15:30 講演

「農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後の展望」

- 農研機構農村工学研究部門施設保全ユニット長 中嶋 勇
(15:30~15:50 休憩)
- 15:50~16:50 パネルトーク、質疑応答
- 16:50~17:00 閉会
- (17:00~18:30 情報交換会)

6. 参加費 無料 (情報交換会は 2,500 円/人)

7. 参加申込み

2 月 6 日 (月) までに、メールでお申し込みください。
メールの表題を「技術研修シンポジウムの参加申込」として、本文に所属・氏名、情報交換会参加の有無を記載してください。

8. 問合せ・申込先

農業農村工学会関東支部シンポジウム担当
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 大澤和敏
TEL&FAX：028-649-5488
E-mail：osawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp

平成 28 年度京都支部講習会・研修会 および農業農村整備地方セミナー（北陸東海近畿ブロック）の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村地域では、人口減少や高齢化が進行し、地域によっては、集落機能や地域資源の維持にも影響が生じることが懸念されています。一方、近年、都市に住む若者を中心に農村の魅力の再発見が進み、都市と農村を人々が行き交う「田園回帰」といった流れが生まれつつあります。こうした中、各地域においてそれぞれの特徴や地域資源を活かして住民自らがさまざまな取組みを行い、地域活性化を目指す動きが見られます。

農業農村整備関係者としては、豊かで競争力ある農業を実現する産業政策と美しく活力ある農村を実現する地域政策を車の両輪として推進していく必要があることから、こうした農村の現状や今後の方向性を正しく把握・分析して、取組みを進めることが重要です。

今回は、農業農村工学会京都支部および全国農村振興技術連盟・東海地方協議会の共催により、「地域資源を活用した地域の振興・活性化」（仮称）と題して、学識経験者、地域リーダー、行政関係者等（仮）の多様な講師により、皆様方の地域における取組みに役立つ幅広い情報を提供させていただくこととしました。地域の活性化に向けたヒントとなる講習会および研修会・地方セミナーに、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

- 主 催** 農業農村工学会京都支部
全国農村振興技術連盟・東海地方協議会
- テーマ** 地域資源を活用した地域の振興・活性化
～地域の宝を見つけて育てよう～（仮称）
- 日 時** 平成 29 年 3 月 2 日（木） 11：00～16：30

- 場 所** 中電ホール
名古屋市東区新栄1 TEL：052-951-6908

5. プログラム概要

- 10：00 受付
11：00～12：00 講習会
13：00～16：30 研修会・地方セミナー

（詳細につきましては支部 WEB サイトにてお知らせいたします。）

6. テキスト代 3,000 円

（別途請求書、領収書を発行します。）

7. 申込締切 平成 29 年 2 月 3 日（金）

8. 参加申込方法および申込先

- ① 各地方連盟で取りまとめのうえ、所属する地方協議会にお申し込みください。
- ② 地方協議会に所属されていない個人会員の方は、全国農村振興技術連盟へ直接お申し込みください。
- ③ お申込みはいずれも、所属・氏名を明記のうえ、メール、FAX またはハガキをお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL：03-3434-5407 FAX：03-3578-7176

E-mail：kensyu@n-renmei.jp

9. その他

本セミナーは農業農村工学会技術者継続教育機構の会員の CPD 単位（申請中）にカウントされます。

農業農村整備政策研究部会第 4 回研究集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は、農業農村整備政策を進化・発展させるため、行政関係者と研究者等が日々の成果を発表する研究集会を年 1 回開催することとしております。ついては、下記の要領で、第 4 回の研究集会「これからの水資源マネジメントを考える」を開催することといたしました。

目まぐるしく移り変わるわが国経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は、わが国農業の基盤強化と豊かな農村の実現にとって急務です。研究者や行政関係者などの皆様は是非この研究集会に奮って参加していただき、農業農村整備政策の進化・発展に寄与していただければ幸いです。

- テーマ** これからの水資源マネジメントを考える
- 日 時** 平成 29 年 1 月 23 日（月） 15：00～18：00
- 場 所** 東京大学農学部 2 号館 2 階 化 1 教室
（東京メトロ南北線「東大前駅」下車、徒歩 1 分）
〒113-8654 東京都文京区弥生 1-1-1

4. プログラム（予定）

開会挨拶 石井部会長

- ① 新たな農業の展開に向けたこれからの農業用水について
農村振興局整備部水資源課水資源企画官 鹿嶋弘律
- ② カリフォルニア州農業地域における水配分の意思決定
（株）地球システム科学 松井香奈
- ③ 田んぼダムを支える施策スキーム
新潟大学農学部生産環境科学科准教授 吉川夏樹
- ④ 農業水利施設の管理情報の継承と人材育成
農村工学研究部門上級研究員 遠藤和子
- ⑤ 岐阜県における県単独事業を活用した小水力発電の推進
岐阜県農政部農地整備課技術主査 横山晋治
- ⑥ 農業農村整備政策の目的と現実
東京農業大学客員教授 元杉昭男
- ⑦ 農業農村整備に係る地方単独事業制度に関する分析

農村振興局整備部設計課施工企画調整室課長補佐
鈴木豊志

講評 飯田研究集会委員長

閉会 佐々木副部長

5. 懇親会

研究集会終了後、キャンパス内（東大生協 農学部食堂）にて18:15から簡単な懇親会（会費：1人2,500円）を開きます。参加者は事前に申し込みください。

6. 参加申込み

参加ご希望の方は、下記の部会事務局に、氏名、所属、連絡先（電話、E-mail）、懇親会の出欠予定をE-mailにてご連絡ください。参加費は無料です。

7. 事務局（問合せ＆参加申込み）

農林水産省農村振興局設計課施工企画調整室 鈴木豊志
TEL：03-3591-5798 E-mail：seisaku-bukai@jsidre.or.jp

水土文化研究部会第14回研究会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業土木のビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

水土の資産を継承・活用していくことは、現代に生きる我々の責務といえる。そこで、熊本県山都町の通潤用水地区を事例にして、「農山村の景観形成と水利用の歴史の変遷」と題して、第14回水土文化研究会を開催する。

1. 日 時 平成29年3月2日（木）13:00～16:00

2. 場 所 農業土木会館

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

TEL：03-3434-0461

3. 講演者

熊本大学政策創造研究教育センター准教授 田中尚人
農研機構九州沖縄農業研究センター畑作研究領域
畑土壌管理グループ上席研究員 島 武男

4. 参加費 無料

5. 申込み・問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域
地域エネルギーユニット ユニット長 後藤真宏
TEL：029-838-7548 FAX：029-838-7609
E-mail：griese@affrc.go.jp

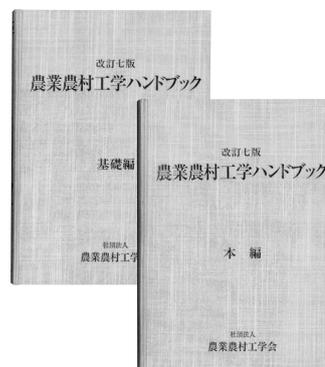
改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は、学会創立80周年の記念出版事業として、農業土木学会から農業農村工学会への学会名称の変更等をふまえ、「改訂六版農業土木ハンドブック」を改訂したものです。

今回の主な改訂点は以下のとおりです。

- ・判型：B5判・8ポイント組、本編・基礎編の2分冊としました。
- ・販売：対象読者層の若手技術者および学生層を考慮し、出版を農業農村工学会独自で行い、購入しやすい価格を実現しました。
- ・構成：本編（6部構成）、基礎編（6部構成）、付録編（農業農村工学教育）の構成としました。
- ・内容：改訂六版の精神を継承した上で、現代の農業農村工学を体系づけるものとし、新分野の拡充と既存分野を整理・統合しました。さらに、基礎編は、JABEE認定プログラムに配慮して構成しました。



体 裁：B5判 本文約1,250ページ
（本編約800ページ 基礎編約450ページ）
定 価：20,571円（税込・送料学会負担）
会員特価：16,458円（税込・送料学会負担）

発行：公益社団法人 農業農村工学会
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/